

壁を階段に変える力（秋のOS）

2024・10・2 重枝 一郎

いじめ防止などの生徒指導支援において、大切な力は、「想像力」と「共感力」である。また、これからの未知の社会を生きていくためにも「想像力」と「共感力」は必須アイテムになってくる。

ここからの話は、私が先日、秋のOSで保護者に話した内容にもなる。先生方は、必ず共有し、生徒にも何らかの場面で伝えてほしい。

まずは、「成長はたし算」の話をした。

本校は、たし算を生みやすい教育環境をつくっている。多様な人との出会いにはしっかりお金をかけている。異質で多様なヒト・コト・モノとの関りは、大きなたし算を生む。そのためにも、受け入れる力である柔軟性が大切だと。この柔軟性は、今の社会が求めている力でもあり、いじめ防止にも働く力になる。

次に、**最上位の目標を共有すること**が大事だと話した。

最上位の目標は「**自律的学習者**」になる。つまり「自分で決める」ということ。全ての教育活動は、この最上位の目標から考えるようになる。進路選択、行事への取組、ルールメイキングなど、生徒が、主体性と協働性をもつようにする。それを育むことで、**社会で活躍できる人**にしていく。

そして、これからの社会は未知の世界であるという話をし、この未知の世界で活躍するために必要な力は、「想像力」と「共感力」と話した。この力を身に付けるには、自ら体験を深くすることでしかこの力を高めることはできない。体験がない人は、これからのことの想像する力や、相手の気持ちを推し量ると共感力をもつことはできない。実は、この「想像力」と「共感力」は学習面、生活面においても大きな力になる。この力がないと、学習も対人関係などもうまくいかない。なぜなら、このこともある意味「未知のこと」になるからである。

逆算的に考えて、「想像力」「共感力」を育むためには、自ら体験する量や深さが求められる。体験している中で、誰も必ず高い壁にぶち当たる。私たちは、その壁を越えられないと思い、浅い経験で終わってはいないだろうか。

「壁を一気に越えることはできないのは当たり前である。大切なのは、“壁を階段に変える力”をもて！ということ。壁を目の当たりにして、止まる、よける、逃げるでは体験したことにはならない。階段に変えると、その1段1段にドラマが生まれる。誰かに相談したり、助けてもらったり、励まされたり、知恵をもらったり、小休止して落ち着いたり・・・とにかくそれは階段の途中である。そして、必ず越えられる」。この言葉の意味は、それこそ、それぞれの経験で実感できると思う。お子さんにも伝えてほしい。

「必ず越えられる！」と力を込めて話した。保護者の皆様から大きな拍手をいただいた。